



株式会社東京印書館 様

<http://www.inshokan.co.jp>

本社/営業所：東京都文京区音羽一丁目22番12号
TEL. 03-5940-5316
玉川工場：埼玉県比企郡ときがわ町玉川162番地
TEL. 0493-65-1161

創業：1947年8月
代表取締役社長：下中 直人

印刷の小ロット化の流れに、 「即乾」と妥協のない「品質」で応えて差別化を図る。

書籍、美術書や写真集、図録などのハイエンドカラーの印刷物を手がける東京印書館。

“標準が高品質”というスローガンに裏付けされる、徹底した印刷品質へのこだわりでお客様との信頼関係を深めてきた。

印刷の小ロット化の中にあって、品質に妥協せず、さらに高いレベルの生産性を追求するため導入したのが、ecoUV 搭載の DIAMOND V3000LS-5 であった。その導入理由と効果について、下中社長にお聞きした。

「標準が高品質」

株式会社東京印書館は、平凡社のグループ企業として1947年に創業。“標準が高品質”をスローガンに掲げ、書籍、美術書や写真集などのハイエンドカラーの印刷物に力を入れている。スローガンに込められた思いについて、下中直人社長は語る。「印刷の小ロット化が進む中でも、品質には絶対に妥協しません。価格競争を回避するためには、刷り上がりの満足をお客様に提供し続けることです。その実現に向けて、今回のV3000の導入が大きな力になっています」

定していませんでした。また、印刷の際に必須のパウダーが原因で、不具合も起きていたんです。そんなとき、以前から長くお付き合いのあった三菱さんに勧められたのがUV印刷でした」

抱えている問題の多くが解消されるという期待感を持ったが、「品質」に対する不安はすぐには消えなかった。

「品質となると、やはり従来の油性インキのほうが断然“上”。それがわたしの認識だったので、すぐには導入に踏み切れませんでした」

品質は同社の生命線。悩んだ下中社長は、

再び三菱に相談を持ちかけ、実際の印刷物を見る機会を得た。

ecoUV 搭載 V3000 の 高い品質に心を動かされる

品質に対しての不安は、実際にUV印刷の印刷物を見る事で払拭された。

「三菱のecoUV方式で印刷された絵本を見て驚きました。網点と地のコントラストがとともよく、エッジが効いている。正直、UVでここまできれいに刷れるとは思っていませんでした。初めて水無し印刷やCTPシステムを見たとき以来の衝撃でしたね」

油性印刷から UV印刷への転換

低調が続く印刷業界にあって、「小ロット」「短納期」など印刷業者に求められるニーズは大きく変わってきた。品質に強いこだわりを持つ同社は、色調に優れた油性印刷を信頼していたが、その環境変化の中で油性の問題点も浮き彫りになっていた。「油性印刷の場合、ブロッキングやドライダウンが発生することもあって、品質が安



ecoUV搭載 菊全判オフセット印刷機 DIAMOND V3000LS-5

WORKS

実績紹介



「墨の存在感が違う。これはUVならではの」と、下中社長。
 図録や著名写真家の印刷物など、ハイレベルな品質が問われる
 仕事に対応することで、価格競争にさらされない企業体質を獲得している。

その高品質に心を動かされ、導入を決断。2011年、ecoUV方式のDIAMOND V3000LS-5が、埼玉県ときがわ町の工場に導入された。同社と三菱との関係について、下中社長はこう語る。

「三菱さんと我が社とは、昭和40年頃に導入したグラビア輪転機以来の長い付き合いです。何か新しいことを始めるときには、まず三菱さんに相談に乗ってもらっています。やはり、それまでに積み重ねてきた信頼が大きいですよ」

V3000の導入後、油性印刷時代の問題点が、大幅に解消された。

「ブロッキングの心配がなくなりましたし、ドライダウンが生じなくなったので元画像と刷り上がりとの違いもない。油性インキの場合、時間が経つとどうしてもドライダウンが生じてしまうので細かな調整が必要でしたが、ecoUVだとお客様がOKを出したとおりの仕上がりになるので、少ない校正で済む。また、以前は粉落ちによる損紙の発生や刷り直しなどのロスが課題でしたが、ecoUVになってそうしたトラブルが格段に減りました」



UV印刷でここまできれいに刷れるとは、驚きでした(下中社長)

東京印書館の高品質を支えるプリンティングディレクターのリーダー高柳昇氏(写真中央)。印刷のコンシェルジュとして入稿から印刷までサポートすることで、安定した高品質を約束し、クライアントとの信頼関係を深めていく。



高品質へ導く プリンティング・ディレクター

印刷品質には一切の妥協を許さない下中社長。そのこだわりを象徴するのが、同社が有している3人のプリンティングディレクターの存在だ。

「入稿から印刷まで責任を持って立ち会い、ディレクションするのが我が社のプリンティングディレクター。つまり、高品質を実現するために、製版と印刷の一体化を図っています。製版からお客様と一緒に入念なチェックを重ね、ご希望される方には、どうぞ工場に足を運んでくださいと自信を持って申し上げます。製版段階においてディスプレイ上で確認したものとほぼ同じものが、V3000から刷り上がってきますからね。品質のよいものを安定して刷れるので、お客様に対して積極的にecoUVを宣伝していますよ」

クライアントからもecoUV印刷を望む声が、日に日に多くなっているという。「印刷機にV3000を指名してくださるお客様が増えています。V3000なら、高い解像度を求められる印刷にも柔軟に対応できるので心強いですね」

美しい印刷物は 人に感動を与える

デジタル化が進む印刷業界だが、オフセット印刷はこれからも主役であり続けると下中氏は言い切る。

「美しい印刷物は、人に感動を与えます。それができるのは、やはりオフセット印刷だと思うんです。日本人は古来より、グラフィックに対する感性を大切にしてきた民族。そのジャパंकオリティを、世界の人々にもっと見てほしい。日本のグラフィック文化は、これからも世界の印刷をリードしていくと思いますよ」

高品質を実現できるV3000と インキとの最適な組み合わせを 提案しました!

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
 東日本営業部 金子 英昭

ecoUV印刷の仕上がりを実感していただくため、V3000の稼働現場で、工場長に実際の出来栄を見ていただきました。また、当社でインキメーカー3社のプレゼンをご覧いただくとともに、印刷機とインキの最適な組み合わせを提案しました。

